

「歴史総合」単元授業デザイン案

埼玉県立川越西高等学校

教諭 後呂健太郎

1 単元名 「近代化と私たち」(2) 結びつく世界と日本の開国

2 単元構成

大項目の単元目標

- ・ 現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。

中項目の単元目標

(1) 「近代化への問い」

- ・ 人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現することができる。

(2) 「結びつく世界と日本の開国」(本提案の範囲)

- ・ 18世紀のアジアの経済と社会、工業化と世界市場の形成を理解する。

(3) 「国民国家と明治維新」

- ・ 立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。

(4) 「近代化と現代的な諸課題」

- ・ 現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。

各中項目に対する小項目

(1) 「近代化への問い」

人々の生活や社会のあり方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを作る。

(2) 「結びつく世界と日本の開国」

(ア) 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、18世紀のアジア経済と社会を理解する。

(イ) 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連づけたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的多角的に考察し、工業化と世界市場の形成を理解する

(3) 「国民国家と明治維新」

(ア) 18世紀以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主

題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連づけたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、立憲体制と国民国家の形成を理解する。

(イ) 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、帝国主義の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連づけたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的、多角的に考察し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。

(4) 現代的な諸課題につながる歴史的な観点から主題を設定し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにする。

3 教材観

「歴史総合」は現代の諸課題がいかにして形成されてきたのか、そしてそれを我々はどう乗り越えていくのか、ということと向き合う科目である。本単元は、現代の諸課題が形成されるに至った経緯を紐解くために必要な、「近代化」というカギとなる問いと向き合うことになる。より複雑になっていく事象の中から、「近代化」を考える本質的な事項を、いかにして生徒は理解し、思考の中で組み立てていけるかどうか、特に意識して授業を行う必要がある。

4 生徒観

基本となる生徒観は、「生徒は有能」である。個々の能力やレディネスこそ異なるが、学習に取り組むにあたり、わからないことを調べることができる環境を整備したり、交流を促進するような言葉がけを教師から発することで、集団として本時の各課題を乗り越えることができる。これはどの生徒集団にも言えることである。ただ、交流を苦手とする生徒や、答えのない課題に向き合うことへの不安感を抱く生徒は少なからずいるため、単元レベルで「歴史総合」と向き合う覚悟で取り組まなければいけない。

5 授業計画と学習目標

時数	中単元	学習目標	本時の課題
1	近代化への問い	現代の国家間における経済的格差について具体例を挙げることができる。	SDGs 10「人や国の不平等を無くそう」を読み、国家間の経済的格差がどのような問題を生じさせているのか調べ、その内容をレポートにまとめる。
2	結び付く世界と日本の開国	<p>「国家間の結びつきにおいて、公正な関係とはどのようなものか。その公正な関係を構築するにあたって、私たちを阻むものは何か」について、</p> <p>①国家間の経済的格差が形成された経緯や背景を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②国家間の公正な関係と、それを阻むものについて、自分の考えを表現できる。</p> <p>③SDGs 10 国家間の経済的な格差を是正するためにどのような方策をとったら良いか、自分の言葉で考察できる。</p> <p>を全員が達成することができる。</p>	①18世紀頃の中国や日本では、それぞれどのような製品が、どのように生産されていたのか説明する。
3			②18世紀頃の中国と日本の商品生産や流通を比較した時、その共通点と相違点のうち、何が重要と考えるか、またその理由はなぜかを説明する。
4			③イギリスに始まる産業革命は、世界各地の社会や経済をどのように変えたのか説明する。
5			④③の変化はアジア諸国と欧米の関係をどのように変えたのか説明する。
6			⑤近代化の中で、国家間の格差はなぜ拡大するに至ったのか説明する。
7		⑥⑤国家間の結びつきにおいて、公正な関係とはどのようなものか。その公正な関係を構築するにあたって、私たちを阻むものは何か考えを述べることができる。	

6 単元の評価方法及び評価規準

(1) 評価方法

アウトプット型のパフォーマンスにて行う。

テーマ：「国家間の結びつきにおいて、公正な関係とはどのようなものか。その公正な関係を構築するにあたって、私たちを阻むものは何か」

形式：1 自由記述のレポート

2 クラスへ向けたスピーチ（10分以内）

(2) 評価基準

	A	B	C
知識・理解	知識・理解 国家間の経済的格差が形成された歴史的経緯と背景を十分に説明している。	国家間の経済的格差が形成された歴史的経緯と背景が説明されている。	国家間の経済的格差が形成された歴史的経緯と背景の説明が不十分である。
表現	国家間の公正な関係と、それを阻むものについて、自分の考えを十分に表現できている。	国家間の公正な関係と、それを阻むものについて、自分の考えを表現できている。	国家間の公正な関係と、それを阻むものについて、考えを十分に表現できていない。
考察	国家間の経済的な格差を是正するためにどのような方策をとったら良いかが、十分に自分の言葉で考察されている。	国家間の経済的な格差を是正するためにどのような方策をとったら良いかが、自分の言葉で考察されている。	国家間の経済的な格差を是正するためにどのような方策をとったら良いかが、自分の言葉で十分に考察されていない。

参考

『成績をハックする：評価を学びにいかす10の方法』Starr Sackstein 著 新評論

『「学びの責任」は誰にあるのか：責任の以降モデルで授業が変わる』

Douglas B.Fisher 著 新評論

『理解をもたらすカリキュラム設計「逆向き設計」の理論と方法』

Grant Wiggins 著 西岡加名恵訳 日本標準

『アクティブ・ラーニングの評価がわかる』西川純著 学陽書房

7 各授業での展開

1 時間目 近代化への問い

学習目標 「現代の国家間における経済的格差において、その具体例を挙げることができる」

学習課題 「SDGs 10「人や国の不平等を無くそう」を読み、国家間の経済的格差がどのような問題を生じさせているのか調べ、その内容をレポートにまとめる」

授業展開 導入 10分

- 1 SDGs は私たちが解決すべき課題であることを示す。
- 2 具体的な事例としてSDGs 10を取り上げる。その中で、国家間の経済的格差に着目し、解決や打開するための方策を全7時間の中で考察することを目標とすることを示す。
- 3 全7時間を終えた状態で、課題に対する自分の考えを他者に伝える状態になっていることを目指す。
※単元の評価について、具体的にここで生徒に伝える。
- 4 この時間ではSDGs 10を読み込み、国家間の経済的格差がどのような課題を引き起こしているかを調べ、他者に報告・紹介する形でレポートを作成する。

展開 35分

- 1 SDGs を生徒が調べ、どのような課題があるかを知る。
※PCやタブレット、スマホなど適宜使用できるよう環境を整える。
- 2 SDGs 10 が他のアジェンダとどのように関わっているかを考察させる
※グループ学習や『学び合い』などのアクティブ・ラーニングを用いながら、全員が本時の課題を達成できるように、教師は適宜援助を行う。

まとめ 5分

- 1 内容のまとめは行わない。単元の目標を確認し、必要であれば生徒へ個別の学習支援（カンファランス等）を行う。
- 2 レポートの形態は問わない。期日までに提出できるように指示する。
- 3 次回より、SDGs をはじめとした現代の諸課題がどのように形成されたのかそしてどのように乗り越えるべきかを考察するための学習に入ることを確認する。

2～7時間目 結びつく世界と日本の開国

学習目標 「国家間の結びつきにおいて、公正な関係とはどのようなものか。その公正な関係を構築するにあたって、私たちが阻むものは何かについて、考えを述べることができる。」

- 学習課題
- ① 18世紀頃の中国や日本では、それぞれどのような製品が、どのように生産されていたのか説明する。
 - ② 18世紀頃の中国と日本の商品生産や流通を比較した時、その共通点と相違点のうち、何が重要と考えるか、またその理由はなぜかを説明する。
 - ③ イギリスに始まる産業革命は、世界各地の社会や経済をどのように変えたのか説明する。
 - ④ ③の変化はアジア諸国と欧米の関係をどのように変えたのか説明する。
 - ⑤ 近代化の中で、国家間の格差はなぜ拡大するに至ったのか説明する。

学習展開 導入 毎時間冒頭5分

- 1 本単元の目標が、「国家間の結びつきにおいて、公正な関係とはどのようなものか。その公正な関係を構築するにあたって、私たちが阻むものは何かについて、考えを述べることができる。」であることを確認する。
- 2 単元目標に到達するために必要な知識・理解は、①～⑤の課題に取り組むことで備えることができることを確認する。
- 3 最終的な評価について以下の説明を行う。
 - a アウトプット型のパフォーマンス課題で評価を行うこと
 - b 形式はレポート、スピーチ、その他形式を問わないこと
 - c 期日は定められていること
 - d 評価の基準は以下の観点で行うこと

展開 40分

- 1 各自課題に取り組む。その際いずれの学習課題から始めてもよい。
- 2 7時間目終了時までにはパフォーマンス課題を完成させる。

まとめ 5分

- 1 内容のまとめは行わない。単元の目標を確認し、必要であれば生徒へ個別の学習支援（カンファランス等）を行う。
- 2 パフォーマンス課題の形態は問わない。期日までに提出できるように指示する。